

問梅閣（高啓）

春はるに 問とう 何いずれの 処ところよりか 来きたる

春はる 来きたつて 何いずれの 許ところにか 在あると

月つき 墮おちて 花はな 言いわず

幽禽ゆうきん 自おのずから 相あい 語かたる

問春何處來 春來在何許
月墮花不言 幽禽自相語

解説 問梅閣に題して、春の訪れとそのありかを、月と花と鳥とを詠ずることによつて巧みに述べた詩である。

語釈 ※問梅閣＝閣の名。※何許＝何処どこと同じ。※幽＝奥深くも
の静かな。※禽＝とり。鳥類

通釈 春に尋ねる。春は一体どこから来るのだろうか、春は来て、
今はどこに有るのだろうか、と。月は隠れ、梅の花は何も答えて
くれない。ただ小鳥だけが静かに囀さえずっているだけだ。